

循呼 News

vol.71



**特集：新病院長就任のご挨拶
新看護部長就任のご挨拶**

Topics !!

新型コロナウイルスに負けるな！

たくさんのご支援をいただきました！

特集 新病院長就任のご挨拶

新型コロナウイルスと闘う 最前線の医療機関の病院長

埼玉県立循環器・呼吸器病センター
病院長 柳澤 勉



令和二年四月一日をもって、埼玉県立循環器・呼吸器病センター病院長に就任した柳澤勉です。

当センターの令和二年度の病院運営方針は

- 1 誠意と熱意ある患者さん対応
- 2 最新医療の追求
- 3 TQM活動の推進
- 4 地域医療連携の推進
- 5 自己研鑽とチーム医療への貢献
- 6 効率的な病院運営

北部地域の救急医療・高度専門医療を担う

当センターは埼玉県北部の循環器、呼吸器、脳卒中の専門病院として近隣の医師会の先生から患者さんを紹介いただいて成り立っていて、500近い医療機関と連携している地域支援病院です。特に、ここ二・三年は脳神経センターの活躍が目覚ましく、脳卒中の基幹病院として存在を十分に示しています。24時間、365日いつでも対応している姿勢に頭が下がります。

す。循環器内科、心臓外科、血管外科で従来からの狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患、心臓弁膜症や大動脈疾患、末梢血管疾患に対して、従来からの手術に加え、カテーテル手術など患者さんの状況に合わせて治療を行っています。呼吸器内科、呼吸器外科では共同して診療を行っています。政策医療として結核診療は前身の小原療養所時代から面々で行っています。様々な微生物（細菌、ウイルス、真菌等）による肺炎、肺癌のプレシジョンメディシン（精密医療：肺癌細胞を遺伝子レベルで分析し、適切な治療法を選択するオーダーメイド治療）、様々な原因による間質性肺炎、アレルギーとの関係の深い気管支喘息、その他のまれな呼吸器疾患も積極的に診断し治療しています。消化器外科、腎臓内科、緩和ケア内科、放射線科、麻酔科、リハビリ科、病理診断科は独立した診療に加え各科と共同し専門性高く診療しています。皆それぞれの立場で大いに病院運営に貢献していただいています。

新型コロナウイルスとの闘い

現在当センターは新型コロナウイルスの嵐と地方独立行政法人化に向けた準備の大潮にさらされています。二月七日から、クルーズ船の乗客を受け入れ始めて以来毎日途切れることなく入院加療しています。未知のウイルスで感染様式、感染力、悪化率（死亡率）、治療法など何もわからない状況から最前線で治療、看護、検査、保健所等との調整に当たってきたスタッフの献身的な努力にはいくら感謝してもしきれません。特に最初の頃は、近隣の医療機関や行政機関の動きも悪く、丸投げされている感が非常に強かったことを覚えています。精神的にも大変で毎日イライラしていました。

独立行政法人化に向けて

地方独立行政法人化は、積年の経営状況の悪さを根本的に解決する方策として、県立病院のあり方委員会が打ち出した方向性で令和三年四月には施行されることが決まっています。現在の準備が着々と進められています。今後、準備がさらに加速して忙しくなっていくと思えます。

大野知事の視察後、記者の囲み取材に対応する柳澤病院長。

病院長として循環器・呼吸器病センターの現状を詳しく説明している。



新型コロナウイルスを収容する重症病棟を視察する大野知事に医療機能を説明する柳澤病院長。

大野知事も真剣な表情で柳澤病院長の説明を聞いていた。

未来を見据える

私は深谷市の郊外（藤沢）に生まれ育ちました。縁あって平成四年に今の病院の前身である小原療養所に着任しました。はじめは、数年間の予定でしたが、今日まで呼吸器内科で働いてきました。生まれ育てていただいた埼玉県北部に些少でも貢献できるように、努力してきましたつもりです。患者さんの中には、実家に近い人もずいぶんいて、はじめは同級生の親や親戚でしたが、最近では同級生が来ることもあります。病院から真北に見える赤城山、その西に子持山、小野子山、榛名山と続く上州の山々や浅間山を見ると子供のころから見慣れた山で何となく心が落ち着きます。生まれ故郷はいいなとしみじみ感じます。次の一万円札の肖像に深谷市出身の明治の実業家渋沢栄一氏がなることが決まり、大いに誇りに思います。

個人的には、還暦を越えて体力の衰えがいかんともしがたいですが、何とか抗ってジョギングをしています。week dayには偶にトレッドミルを使わせていただいています。週末は何とか10km以上、月に150kmは走りたいと思っています。達成しない月も多くは5階にある部屋まで基本的には上りも下りも階段を利用したいと思います。健康維持は仕事の基本だと思っています。

新看護部長就任のご挨拶

看護部長 高橋 陽子



令和2年4月1日より就任しました看護部長の高橋陽子です。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

私自身は、この地で看護学生時代を過ごしたこともあり、またセンターの準備室から勤務していましたので、センター周辺の景色や空気、小原療養所時代の懐かしさも感じられるこのセンターでまた看護できることを大変うれしく思っております。

さて、循環器・呼吸器病センターは、埼玉県、特に北部地域の循環器・呼吸器系疾患の高度急性期医療、看護を提供し、地域医療を担う役割があります。センター設立当初から、この役割を果たすため、多くの救急、重症患者さんを受け入れてきました。看護部は“患者さんの生命・権利を尊重し、信頼される看護部を目指します”を理念に掲げ、看護師一人一人が、患者さんの“いのち”に寄り添って、最善の看護ケアを提供できるよう努力してまいりました。思い起こせば、当センター開設初日に入院した循環器内科の患者さん、初めて心臓外科で手術した患者さん、そこから始まり、既に26年が経ちますが、看護師の患者さんへの思いは、ずっと変わらずに続いていると感じています。

ここ数年のセンターは、新館の建設、緩和ケア病棟の開設、腎・透析センターの開設、脳神経センターの開設など、新たな機能を充実させています。役割機能の拡大に伴って、研修派遣や認定看護師の育成など、看護の質向上を目指して取り組んできました。これからも、循環器系・呼吸器系それぞれの専門性を高め学び実践できる看護師の育成に努めていきたいと思っております。

最近では、新型コロナウイルス感染症で、感染拡大防止に向け、皆様も大変ご苦労されていることと思っております。当センターでも、来院時の体温測定や面会制限など、患者ご家族の皆様にもご協力をいただきありがとうございます。皆様に安心して医療を受けていただけるよう努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

Topics!!

たくさんのご支援を
いただきました!

今般のコロナ禍において、皆様からたくさんメッセージやご支援をいただきました。

メッセージを見て笑顔が溢れる職員や涙する職員もいました。

未知のウイルスに対抗する強い原動力、心の支えとなっています。

これからも職員一丸となり医療を提供して参ります。

暖かい応援メッセージを誠にありがとうございました。

